

## 議員派遣行政視察報告書

- ・視察期間 令和2年2月4日(火)～2月5日(水)
- ・視察先 東京都足立区 「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」について  
東京都北区 「赤羽体育館」について  
東京都文京区 「文京区スポーツセンター」について
- ・視察議員 大川原 成彦

# 行政視察報告書

委員氏名 大川原 成彦

|                   |   |
|-------------------|---|
| 調査の期間             | 令和2年(2020年)2月4日(火)～2月5日(水)  |
| 調査先<br>及び<br>調査事項 | ①足立区 2/4「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」について<br>②北区 2/4「赤羽体育館」について<br>③文京区 2/5「文京スポーツセンター」について |

①足立区 「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」について

<事業概要>

足立区は東京23区の最北端に位置しており、北は埼玉県川口市、草加市、八潮市に接している。区内の人口は66万5千人で23区内第5位、総面積は53.25km<sup>2</sup>で23区内第3位である。基本的に住宅都市で人口あたりの税収は23区内で下位となる。かつては犯罪、貧困といったイメージが付きまとったが、近年では鉄道新線の開業、大学誘致、再開発といった目に見える新規プロジェクトと併せ、子どもの育ちや高齢者の安心を、貧困対策、食育、地域活動の活性化など、ソフトの分野で大きく支える施策を展開し、注目を集めている。今回は、地域における日常적인見守りや声かけ活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動としての「孤立ゼロプロジェクト」について視察した。

①孤立ゼロプロジェクト高齢者実態調査：町会・自治会、民生・児童委員の方々の協力により、地域の高齢世帯に対して訪問による調査を行う。調査の対象となるのは、介護保険サービスを利用していない70歳以上の単身世帯、75歳以上のみで構成されている世帯。調査の結果、支援が必要な世帯に対しては、地域包括支援センターが

|   |
|---|
| <p>中心となり介護保険サービスや地域の居場所へのつなぎなど様々な支援を行う。</p>   |
| <p>②わがまちの孤立ゼロプロジェクト：町会・自治会等の活動の中で、日ごろからの挨拶や声かけをすることによって、一人暮らし、日中独居等の高齢者の不安を軽減し孤立を防ぐ。玄関先での戸別訪問、集会室や会館を活用した高齢者の居場所づくりなどによって、日常的な見守り・交流を行う町会・自治会に「絆づくり応援グッズ」を提供し、活動を支援。</p>  |
| <p>&lt;質疑・応答&gt;</p>  |
| <p>Q 1：事業発足の経緯</p>  |
| <p>A 1：核家族化・高齢化に伴う単身高齢世帯、ゴミ屋敷化や孤独死なども社会問題化し、自治会加入率の低下などの地域活動の低迷をてこ入れする必要もあり、地域団体に対して調査を依頼、見守り・交流等の活動支援を開始した。</p>  |
| <p>Q 2：職員の取り組み、現場での活動</p>   |
| <p>A 2：地域団体への説明と協力依頼から取り組み、調査・活動が始まると現場で発生するトラブル、クレームは全て市職員が対応する。調査対象となる方の中には、調査員の個人情報の取扱いについて苦情を申し立てる事例が見られるが、「足立区孤立ゼロプロジェクト推進に関する条例」が平成25年1月1日に施行されており、調査員の活動は法的に担保されている。調査員対象の研修会も開催されており、スキルアップの他情報共有の場ともなっている。</p> |
| <p>Q 3：事業施行によるアウトカム</p>   |
| <p>A 3：自治会・町内会等の地域団体の活性化が促されている。担い手の不足、高齢化などの状況が改善されている訳ではないが、調査員としてまた見守り・交流の担当者として、様々な気づき、現場での工夫が考案・実践され、研修時に団体間同士で情報共有されるなど、自発的、自己増殖的に問題意識の向上が図られている。交流の会場でも、公共施設のみならず、個人の住宅、法人の事務所、マンションの集会所、学校</p>                  |

の利用、スーパーのイートインの利用などなど、多様な取り組みが見られる。地元企業がCSR活動の一環として協力を申し出ている事例などもあり、地域資源の発掘に大きな効果が見られる。

<当局への提言>

足立区の事業を参考にしてはどうか。

②北区 「赤羽体育館」について

<事業概要>

北区は東京23区の北部に位置しており、北は埼玉県川口市、川口市に、東は足立区に、西は板橋区に、南は文京区、豊島区に接している。区内の人口は35万2千人で23区内第17位、総面積は20.59km<sup>2</sup>で23区内第11位である。区域は王子、滝野川、赤羽の3エリアから成り、明治通り、環七通り、環八通りの環状線、中山道、本郷通りの放射線、といった幹線道路が通っており、また、JRの駅数が23区中で最も多く（10駅）、区内のほとんどの住宅地が駅からの徒歩圏内にある。

赤羽体育館は平成5年の第3次北区基本計画に記載、平成11年北区基本計画2000において計画事業化、平成16年（仮称）赤羽体育館建設基本計画が策定され、平成28年に竣工、開設された。

<質疑・応答>

Q1：構想から建設・竣工までの時間について、コストの変動、トレンドの変化、等々

A1：平成20年、東京都清掃工場跡地にて埋蔵文化財調査、地中障害物撤去の後、平成22年土壤汚染対策等のため工事着工が延期、平成24年用地取得するも東日本大震災の影響により建設工事入札不調に伴い着工延期、平成26年工事着工、平成28年10月竣工、平成29年2月開設。基本的な設計思想、コンセプトは変更無し。

老朽化した神谷体育館に替わり、桐ヶ丘体育館（赤羽台）、滝野川体育館、と併せ3体

|   |
|---|
| <p>育館体制を維持。市民利用が主目的で興行用途は想定していない。</p>   |
| <p>Q 2 : 施設利用率</p>  |
| <p>A 2 : 良好</p>   |
| <p>Q 3 : 管理・運営について</p>  |
| <p>A 3 : 公募による指定管理。桐ヶ丘体育館及び滝野川体育館の管理・運営を含む3館の一体的管理・運営を行う。5社による共同事業体。3社はそれぞれ他自治体の体育施設の管理・運営実績あり、1社は地域まちづくり系の事業体、1社は造園工事業者となっている。公募時の指定管理者からの提案内容は以下の5点。①気軽に利用出来るコミュニティ空間・まちづくりの提供 ②区民のニーズに沿ったプログラムを提供 ③「する・みる・かたる・ささえる」スポーツが継続可能な環境を提供 ④省エネルギー技術で快適空間の提供と環境保護に貢献 ⑤ホスピタリティあふれるサービスの提供</p> |
| <p>Q 4 : 集会施設、商業施設の増設の検討は</p>   |
| <p>A 4 : 屋内にはすでに、共有自由スペースとして机と椅子の並んだコーナー、大型モニターが設置されたベンチの並んだホール、会議室等が設置済み。赤羽体育館は隅田川河畔にあるが、屋外では、地続きのスーパー堤防敷地の船着き場に隣接した小公園を造成中。</p>   |
| <p>&lt;当局への提言&gt;</p>   |
| <p>最寄り鉄道駅から7分という交通至便な立地を見習うべき。</p>  |
| <p>館内の自由スペースでの飲食可能が望ましい。</p>  |
| <p>エクササイズスタジオ、多目的ルームといった使い勝手のよい部屋があるとよい。</p>  |
| <p>幼児体育室では幼児向け体操教室が開設されていてお母さん方の社交場となっている。</p>  |
| <p>③文京区 「文京スポーツセンター」について</p>  |

|  |
|--|
| <事業概要>   |
| 文京区は東京23区の中央北寄りに位置しており、ほぼ全域が山手線内側に収まる唯一の区であり、JRの鉄道駅が無い。北は豊島区、北区、荒川区に、東は台東区に、西は新宿区に、南は千代田区に接している。区内の人口は23万5千人で23区内第19位、総面積は11.29km <sup>2</sup> で23区内第20位である。区域は台地と谷が交互に並ぶ坂の多い街である。区名のとおり、教育・研究機関の多い区で、出版、医療器具等の業界の集積がみられるが、住宅街を多く残す文教住宅都市といえる。 |
| 文京スポーツセンターは昭和61年の開館から30年以上が経過し、施設本体やその諸設備が老朽化してきていることから、全館空調(冷暖房)やエレベーター更新による大型化、競技場(アリーナ)照明設備の更新など各種設備等の更新と併せ、全館のバリアフリー化とユニバーサルデザインの導入、プールエリア内の全面リニューアルなど、改めて区民の誰もが安全で快適にスポーツを行うことができる施設とするため、平成29月から休館、全面的な改修工事を実施した。                        |
| <質疑・応答>  |
| Q1：更新・建替ではなく改修とした理由  |
| A1：建造物の躯体自体は、補強をすれば必要な耐久性を保持しており、時代の要請に應えるのに改修で十分であったこと。   |
| Q2：空調、プール改修、観覧席の増席等、主な改修について   |
| A2：①空調は、特に近年夏季の高温化に伴い不可欠な設備となった。②プールについては可動床の導入により、メインプールが子どもから大人までできるようになった。  |
| ③主競技場(アリーナ)観客席は床、椅子、手すり等の全面リニューアルを施工。④ユニバーサルデザイン化として、だれでもトイレの拡充・洋式化、バリアフリー化、授乳室設置、キッズルーム設置、音声ガイド・誘導ブロック等整備を行う。⑤利便性の向上として、ストレッチャー対応のエレベーター大型化、更衣室の全面リニューアル  |

